

佐賀の林業

No. 627
2010 冬号

平成22年2月1日発行●四半期1回発行●第627号



公民館正面



廊下



大会議室



図書館



モクリン

県産木材利用施設 佐賀市三瀬村「せせらぎ みつせ館」 平成21年7月 竣工

目次

みんなの林政	災害に強い県土づくり 「多様な森林づくりの推進」 ……2 「保安林制度」と「林地開発許可制度」 ……3
普及だより	普及活動事例「武雄農林事務所」 ……4 普及活動事例「鹿島農林事務所」 ……5
トピックス	「地産地建 県産材で家を建てる」 ……6 「こだまの森林づくりシンポジウム」 ……8 「森林を守り・育てるヒーローたち」 ……9
現場の顔	「佐賀中部森林組合 武富正典さん」 ……10
頑張っています林業研究グループ	「塩田町はげ紅葉会」 …… 10
お知らせ	「平成21年度 山地災害防止標語コンクール」 ……11 「伊万里農林高校に機材（チェーンソー）を贈呈」 ……11 「表彰者の紹介」 ……11
表紙の紹介	……11
佐賀の木材市況：平成21年10月～12月	……12
編集後記	……12

※ さがのよか木を応援する「よかウッド」へは、<http://www.yoka-wood.jp> へアクセスしてください。



みんなの
林 政

災害に強い県土づくり

～多様な森林づくりの推進～

平成21年11月4日、東京都で開催された第49回治山研究発表会の緑化・森林造成部門において、佐賀県から森林整備課みどり推進担当の石田副主査が発表を行いました。惜しくも受賞はなりませんでしたが、優れた発表内容でしたので、その概要を紹介いたします。

「郷土樹種の混植・密植による森林づくり」

1 はじめに

県では、災害に強い森林や水源を守る森林、生命を育む森林を整備するために、人工林の整備とともに広葉樹林の育成など、多様な森林づくりを推進しているところです。

今回は、平成16年8月の台風による風倒木被害地における、広葉樹の混植・密植による復旧事例をその後の経過を交えて報告します。

2 植栽地の概要

佐賀市富士町麻那古地区の亀岳のスギ人工林の風倒木被害地8haのうち、谷部で風の影響が大きい0.5haについて、植栽を実施しました。

植栽は、被害地周辺に自然状態で分布する多数の樹種（郷土樹種）を混植・密植する方式を採用しました。

3 植栽方法

自然環境や生態系に配慮するために、周辺の植生調査を行い、合計29樹種を選定しました。また、その生育している比率を基に、植栽する樹種ごとの比率を決定しました。

区分	樹種名	本数	区分	樹種名	本数	区分	樹種名	本数
高木	スタジイ	2,295	中木	ヤブツバキ	945	低木	ネズミモチ	600
	タブノキ	2,205		イロハモミジ	975		アオキ	150
	アカガシ	1,350		ユズリハ	540		サザンカ	150
	ヤマザクラ	1,080		シロダモ	405		ヒサカキ	150
	アラカシ	675		モチノキ	405		マサキ	150
	シラカシ	675		ヤブニッケイ	270		アセビ	90
	イチイガシ	405		シキミ	135		ガマズミ	90
	ウラジロガシ	405		ソヨゴ	135		ムラサキシキブ	75
	ナナメノキ	405	8樹種	3,510	イヌツゲ		45	
	ヤマボウシ	405	29樹種	15,000	9樹種	1,500		
	アカシデ	135						
	イヌシデ	135						
12樹種	9,990							

地上部が30cm程度のポット苗を、1m²あたり3本の間隔で隣同士が同じ樹種にならないように、15,000本（30,000本/ha）植栽しました。

降雨による土壌の流出や雑草の繁茂を防ぐために、稲ワラで苗木の根元を左右から挟みこむようにして、地面が見えなくなるように敷き詰めました。

なお、植栽作業は地元の企業が中心となって、植栽ボランティアを募り、1,300名の県民の参加により実施しました。



4 生育状況

植栽後、約3年5ヶ月が経過した平成21年9月に植栽木の生育状況（樹種・樹高）を調査しました。調査プロット（面積100m²）での生育本数は、植栽時に比較して約8割に減少したものの、植栽した29樹種の大部分について生育が確認されました。樹高は、スタジイやタブノキで2～3mで、植栽木が密生した状況です。



5 まとめ

郷土樹種の混植・密植による植栽方式は、従来の植栽方式と比較して、苗木代などの経費や植え付け作業の負担が大きいです。作業負荷が大きい夏場の下刈り作業が、2年から3年間で済み、管理する期間を短縮することができます。

今回調査した植栽地は今後、植栽木同士の競争による淘汰が始まり、将来は天然林同様の森林になると期待しています。

今後は、山腹崩壊地など、より自然条件が厳しい箇所を対象にこの方式による森づくりの導入を検討したいと考えています。

（森林整備課 治山担当）



みんなの 林 政

貴重な森林を守り育てるための 「保安林制度」と「林地開発許可制度」

森林の重要性

森林は、洪水や渇水を緩和し、水質を浄化する水源かん養、土砂の流出や崩壊を防止する災害防備、生活環境の保全などの重要な機能を持っています。

さらに、最近では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収したり、貯蔵したりする機能にも注目が集まっています。

今回は、森林の持つ機能を維持・向上させるための保安林制度及び林地開発許可制度について説明します。

保安林制度の概要

1 保安林制度

森林法に基づき水源のかん養、災害の防備等の目的を達成する必要がある森林を保安林として農林水産大臣又は都道府県知事が指定します。

保安林に指定されると、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や、土地の形質変更などが制限されますが、税金の免除などの優遇措置もあります。

2 保安林における制限

指定施業要件による立木の伐採規制や土地の形質変更等の規制を受けるとともに、植栽によらなければ的確な更新が困難と認められる伐採跡地では植栽義務が課せられます。

① 立木の伐採

都道府県知事の許可が必要です。

《許可要件》伐採の方法が指定施業要件に適合し、かつ、指定施業要件に定める伐採の限度を超えないこと。

※間伐及び人工林の択伐の場合は、都道府県知事への届出が必要です。

② 土地の形質の変更

都道府県知事の許可が必要です。

《許可要件》保安林の指定目的の達成に支障を及ぼさないこと。

③ 伐採跡地での植栽義務

指定施業要件に従って植栽をしなければなりません。

(注) 指定施業要件

保安林の指定目的を達成するため、個々の保安林の立地条件等に応じて、立木の伐採方法及び限度、並びに伐採後に必要となる植栽の方法、期間及び樹種について定めたものです。

林地開発許可制度の概要

1 林地開発許可制度とは

保安林以外の森林についても、開発行為を行うに当たっては、森林の持つ役割を損なわないよう適正に行わせるものです。

2 林地開発許可の対象

林地開発許可の対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林で、1haを超える開発行為を行おうとする場合に都道府県知事の許可が必要です。

※国又は地方公共団体が事業者として開発行為を行う場合は、知事に協議が必要です。

3 林地の開発行為

土石又は樹根の採掘、開墾その他の土地の形質を変更する行為で、森林を伐採して、スキー場やゴルフ場の造成、レジャー施設や宿泊施設の設置、土石等の採取（採石等）を行うことです。

佐賀県森林審議会森林保全部会

佐賀県森林審議会の中の森林保全部会では、保安林の解除に係る面積が1haを超える場合又は林地開発行為の許可を行う場合に、許可することが適切であるか調査・審議を行います。

(森林整備課 森林保全担当)



普及だより

ムキタケの実用栽培2年目を迎える

昨年度の状況

武雄市山内町におけるムキタケの実用栽培も2年目を迎えます。ビニールハウスを利用した秋から初春にかけての省エネ栽培ですが、20年12月から21年3月にかけて220kg（2,200パック）出荷がありました。道の駅「黒髪の里」の物産販売所での生鮮ムキタケの販売と隣接の自然食レストラン「なな菜」でムキタケ料理の提供という2本立ての販売方式で、好評のうちに20年度の生産が終了しました。



福地克水氏のハウスの状況

ムキタケ栽培研究会の設立

21年3月25日には、ムキタケ栽培に関する研究及び技術の向上に取り組む目的で生産者8名と関係団体（道の駅「黒髪の里」、自然食レストラン「なな菜」、林業試験場、武雄農林事務所、きのこアドバイザー）からなる「黒髪の里ムキタケ栽培研究会」が設立されました。開催は不定期ですが、会員相互に栽培ハウスを見て回り、栽培技術の研鑽に励まれています。

PRに一役

12月24日には、NBCラジオのスキッピーの取材がありました。当日は、林業試験場の有森由美研究員と生産者の福地克水氏へのインタビューが生放送され、ムキタケのPRに一役かいました。

今年度の状況

平成20年度は約500菌床でしたが、21年度は、菌床の申し込み数も800菌床を越え、生産者の方々の意気込みを感じるどころです。生産量も400～500kgを見込んでおり、12月から生鮮ムキタケの販売とムキタケ料理の提供を始めています。



森祐子レポーターのインタビューを受ける
有森 由美 研究員（写真左）



道の駅「黒髪の里」での生鮮ムキタケの販売



同 福地 克水氏（写真左）

（武雄農林事務所 林務課普及担当）



普及だより

多良岳材の産地づくりに向けた取り組み



1 取組の概要と経過

多良岳山系は県内でも有数の林業地であり、人工林が全体森林の約8割を占め、約1万1千ヘクタールのスギ、ヒノキ林となっており、9齢級以上の収穫時期に達した森林が年々増加しています。



(枝打ち100万本運動)

当管内では、昭和54年に太良町森林組合において始まった「枝打ち100万本推進運動」を契機として、無節材や大経材などの優良材の生産を進めています。その推進母体である市町、森林組合、林業後継者等で組織される佐賀南部林政協議会のメンバーとして参加し、間伐などの手入れが必要な森林を見回るパトロールや育林コンクール、伐採技術コンクール等の各種講習会を実施しており、「多良岳材」の銘柄化の確立におけた「多良岳材の産地づくり運動」が円滑に展開できるように支援しています。



(多良岳材生産販売体制検討会)

なお、優良な多良岳材を有利に販売するため、太良町森林組合を中心として組織された多良岳材生産販売体制検討会に参加し、多良岳山系の森林の現況や近隣の製材工場の稼働状況等の調査、九州内の大規模な市場の視察等の結果を取りまとめた多良岳材の生産販売推進方針の制定を支援しました。

また、県産木材の需要拡大のため、管内の大工・工務店に対し、県産木材を利用した「こだわりのある家づくり」を進める家づくりグループの組織化を働きかけ、今年度、1グループの立ち上げとグループが手がけた住宅の完成見学会の開催を支援しました。

2 今後の課題と取組

丸太の生産について、管内の両森林組合ではスイングヤーダーやフォワーダーを早期に導入することを検討しており、また、林業事業体においても更なる高性能林業機械の整備を行うなど、管内における丸太生産の低コスト化の実現と作業負担の軽減に向けた取組の機運が加速化する気配です。



(高性能林業機械操作研修)

一方、木材の需要拡大については、景気低迷の影響から依然として低調ですが、今年度から始まった森林整備加速化・林業再生事業で公民館等の整備が進められており、公共事業での地元材の利活用を推進しています。また、国の経済危機対策による住宅税制、融資制度等が拡充される見込みですので、個人住宅での地域材（県産木材）の消費にはずみがつくのではと期待されます。これを好機ととらえ多良岳材の生産販売を推進していきたいと考えています。

林業普及の今後の取り組みとして、林業事業体に対しては、林業機械の操作研修等の場を数多く提供するとともに、作業路を活用して、高性能林業機械の効率的な連携作業方法等の普及にも取り組みたいと考えています。また、木材の需要拡大推進については、川上・供給側の目線だけではなく、川下・消費側の目線も交えた仕組みづくりが必要と考えており、当管内の実情にあった方法を地域で考え、実践に結び付けたいと考えています。

(鹿島農林事務所林務課 普及担当)



トピックス

地産地建「県産材で家を建てる」



武雄市若木町で地元の木材にこだわった家づくりに取り組んでいる一級建築士がいらっしゃいます。循環型たてもの研究塾主宰であり、「木」と「土」の家をつくる会の代表でもある山田信行氏がその人です。



土壁補強材（竹）施工中（1階部分）

地元の木で家を建てる

地産地建のモデルハウスとして、山田氏により武雄市若木町川古に建築された木造2階建てのエコハウスを紹介します。概要を以下に示します。

- 1 建坪 11.78坪（延べ床面積21.88坪）
- 2 使用木材 21.86m³
- 3 特徴

- 木、土、竹、藁などの自然素材を活かして脱シックハウス症候群・脱アレルギー
- 地域の循環：地域建築産業の活性化、建築業の後継者の育成
- 輸送距離の短縮：燃料の節約、排出されるCO₂の削減、省エネにもつながる。



土壁補強材（竹）施工後（1階部分）



（棟上げ時）



今は懐かしい土壁塗り後（西側から）



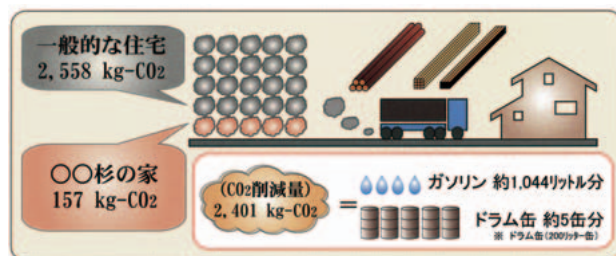
屋根の丸い穴は通風用の空気層



土台部分：通風口（最近の家屋の仕様）

	モデルハウス	一般的な住宅 (全国平均)
①材積 (木材使用量)	21.8646 m ³	14.3213 m ³
	← 約 1.5倍	
②ウッドマイルズ (平均輸送距離)	54 km	6,983 km
	← 約 1/129	
③ウッドマイレージ (①材積m ³ ×②輸送距離km)	1,191 m ³ ・km	100,000 m ³ ・km
	← 約 1/84	

モデルハウスのウッドマイルズとウッドマイレージ



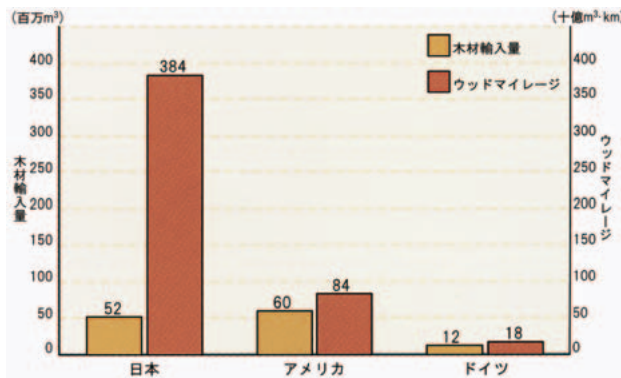
モデルハウスのCO₂削減量

それによると、ウッドマイレージ（材積×輸送距離）は1,191m³・kgで一般的な住宅（国内平均値）の1/84、ウッドマイレージCO₂（木材輸送時に排出されたCO₂総量）は157kg・CO₂で一般的な住宅の約1/16です。CO₂削減率94%で、いかに今日的課題に対応した建築であるかが理解できます。

当エコハウスは、乾燥材の供給問題などからやむなく、富士大和森林組合から供給された佐賀市富士町産のスギ材が利用されていますが、将来的には「地元武雄産の材で家を建てよう」という理想を掲げて日々活動をされています。

ウッドマイレージの大幅な削減効果

8割以上を輸入に頼る日本の木材事情ですが、多くの木材を遠方諸外国から輸入しているため、木材量に輸送距離を掛け合わせた「ウッドマイレージ」は、米国の約4.6倍になるといいます。（ウッドマイルズ研究会試算）



日米欧の木材輸入量とウッドマイレージ



完成したモデルハウス

山田信行氏はウッドマイレージを提唱されていて、当ハウスでも数値化されています。

(武雄農林事務所 普及担当)



トピックス

こだまの森林づくりシンポジウムを開催しました ～県民協働による森林づくりを進めるために～

はじめに

去る11月14日、佐賀市富士町の「フォレストふじ」において、「こだまの森林づくりシンポジウム」を約160名の参加のもと開催しました。シンポジウムでは、10年間で100万本の広葉樹植栽と5万haの森林整備を行う「こだまの森林づくり」の取り組みが5年を経過したため、これまでの取り組みを検証し、課題と解決策を探る下記の講演やパネルディスカッション等を行いました。

【表彰】



(表彰式)

シンポジウムでは冒頭、緑化ポスターコンクールや標語コンクール、未来につなぐ森林づくりコンクール、きこり選手権で優秀な成績を取られた方々が、牟田県土づくり本部長から表彰されました。

【基調講演】



(基調講演)

森林ボランティア活動の先進的な取り組みに詳しい九州大学芸術工学研究院の朝廣和夫准教授による基調講演が行われました。イギリスでは、美しい景観を守るため国が大きく予算を割いてボランティアリーダーを育成し、その方々が中心となって環境保全活動を展開していること、同好会的な日本のボランティア層を広げるためには、プロ意識を持った事務局が必要であることが強く心に残りました。

【パネルディスカッション】

佐賀大学の五十嵐勉准教授をコーディネーターに、林業や森林ボランティアなどの5名をパネラー、朝廣先生及び

箕輪森林整備課長をアドバイザーとしてパネルディスカッションが行われました。ボランティア団体の森林づくりの関わり方については、里山保全にボランティアの支援は不可欠だが、技術不足で安全面に問題があるとの意見が出されました。また、方向性については、やらされて参加するのではなく自発的な参加へ、そして技術を持った集団になる必要があるとの意見が出されました。さらに、会場からは、木材価格の下落で林業の存続が厳しく技術者が育っていない現状の指摘や、森林づくりボランティア団体へのさらなる支援の要望がありました。



(パネルディスカッション)

【講評】

朝廣先生からの講評では、パネラー吉浦隆夫さんの「恵まれた風土のもと、貴重な緑資源を国民の手で管理する時代が来たと思う。」との思いをどのように継承し実現させていくのかという点に課題を感じたと話されました。ここには、生業としての林業の問題があり、一方で街の人達は何をして良いのか分からないという問題があると分析されました。イギリスのように、格好の良いヘルメットをかぶり腰に鉈をさげ、笑顔がすてきな30代の女性が安全指導するなかでのボランティア活動はすごく魅力的で、入り口として大変効果的であると話されました。また、入った人をフォローアップするためボランティア活動を支援する事務局が必要であり、助成金を取ってきて、現場のリーダーにお金と資材を渡して、リーダーが現場に集中できる体制づくりが大切であることを強調されました。

おわりに

後日の朝廣先生のブログには、「現場のリーダーを育てるには何年もフォローを続ける必要があります、その中から自分の仕事と山仕事を兼業する人材や、田舎に暮らし林業につく人が得られる可能性が出てくるかもしれません」と綴られていました。

今回のシンポジウムを契機に、こだまの森林づくりをさらに発展させ、健全で県民に豊かな実りをもたらす森林を県民協働で作っていくという気持ちを新たにしました。

(森林整備課 計画調整担当)



トピックス

森林を守り・育てるヒーロー達
～これからの林業は3Kで！～ 「かっこよく・きめて・きれい」な森林に再生

間伐等の森林整備の作業には、主にチェーンソーを使います。

このチェーンソーを使った安全作業の第一は服装からです。

そこで、唐津管内の森林組合の若手作業員の方をモデルにして、チェーンソー作業のために開発された服装・装備などを紹介します。

森林作業で発生した災害を調査したデータによると、体の部位別では、下肢の死傷災害が約50%と多くなっています（厚生労働省調べ）。チェーンソーでは、丸太を切り離れた後にそのままの勢いでチェーンソーが下肢に触れる危険があります。（特に左足）

このようなデータを基に、ズボン（脚部）には、切断防止機能のある布地が採用されています。この機能は、チェーンソーが布地の表面を切り裂くと内部の繊維層を引き出し、チェーンソー（ドラッグリンクとスプロケット）に絡み付き、ソーチェーンの回転を瞬時に停止させることができます。



（チェーンソーに絡み付く状況）

<これからの林業は3Kで！>

作業用ズボンの他にも、ジャケットやブーツにも特殊な機能が付けられており、最近では、だいぶおしゃれになってきました。

これまでの3K職場や職種とは、「危険」・「きたない」・「きつい」、最近では「帰れない」・「厳しい」・「きつい」などとも言われています。林業は、「危険」・「きつい」職種ではありますが、これからは「かっこよく」・「きまった」服装で「間伐等」の森林整備をすることで、若い人たちへの憧れの職種になることを期待します。



左：池田 俊さん（経験年数2年）
右：石橋 大介さん（経験年数3年）

最後に、快くモデルを引き受けていただいたまつら森林組合の池田さん、石橋さん、また、防護服等の装備一式を提供いただいた徳川機械様、ご協力ありがとうございました。

（唐津農林事務所 林務課 普及担当）



現場の顔

佐賀中部森林組合 武富正典さん



私は、佐賀中部森林組合で働き始めて、今年で6年目になります。

高校を卒業後、造園業に就職しましたが、友人に誘われ林業の世界で働こうと思いました。

初めは自分より歳をとった樹木を間伐の対象として選木し、伐採することに自信が持てず抵抗がありましたが、先輩方の優しい指導の下、選木の方法、伐倒方向の決め方などを学び、今では自分で選木し、決めた方向に伐倒することが出来るようになりました。

何より、自分が間伐した山が明るく綺麗になったと思えることは、嬉しさと共に、自信にも繋がっているように思えてきました。

また、去る11月には「佐賀中部地区伐倒技術コンクール」が開催され、先輩とペアで組合の代表として選出され、最優秀賞を頂くことができました。

これは、先輩方から常日頃、安全確認のため、大きな声出しを指導していただいた成果であり、大きな自信と今後の励みになりとても嬉しく思いました。

林業という仕事は、危険が多く、危険予知や安全計画に基づいた作業の中で、素早い判断とフットワークで作業を行わないと今の木材価格に追いついていけない大変な仕事だと思いますが、自然に親しめ、四季を間近に感じ取れるやり甲斐の大きな仕事だと思っています。

これからも林業に誇りを持ち、組合員さんに喜んでいただけるような山づくりはもちろんのこと、この豊かで健康な自然を未来のために守っていけるよう頑張りたいと思います。

(佐賀中部農林事務所 林務課 普及担当)

がんばっています林業研究グループ

女性林研塩田町はぜ紅葉会

はぜ紅葉会は、平成9年7月1日に会が発足して、今年で13年目となりました。

会員は、会長の尾形満智子さんをはじめ、23名で、地域の女性が主体となって頑張っておられます。主な活動は、ハゼノキの栽培管理で、ハゼノキからハゼの実を収穫し、福岡県の荒木精蠟合資会社に出荷しています。今年は、12月26日に出荷されるとのことです。昨年は約3.2tの出荷がありましたが、今年は裏作により実の出来が少ないようです。

「発足当初と比べハゼノキが大きくなり、年による変動はあるもののハゼの実の生産量は、年々伸びている状況です。その反面、樹高が高くなり、選定作業などが大変になってきて、良かったり悪かったですよ。」と、笑顔で語っていただきました。

林研でもハゼの実から木蠟を採取し、和ろうそくを作られており、色々と工夫をこらしたおしゃれなもので、商工会のイベントなどにも出展販売されています。

尾形会長さんは、塩田中学校や武雄小学校などから、和ろうそくづくりの体験活動の講師として招かれることも多く、和ろうそく作りの体験だけでなく、



和ろうそくを持つ尾形会長

森林の役割や大切さ、そのなかでの林業の役割など、女性ならではのわかりやすい、やさしい語り口で指導されており、子ども達にも好評のようです。さらに、県内外の林研グループや消費者グループなどからの視察を兼ねた体験活動も積極的に受け入れられており、参加された方々は十分に楽しまれて帰って行かれるそうです。

発足から13年、会員の皆さんは、一様に年齢を重ねられ、少々高齢化してきて、林研の将来も心配されていますが、自分たちで会を楽しむ気持ちと、郷土の森林を慈しみ愛着をもって接しておられる限り、ますます活動に磨きがかかると思われます。これからも、はぜ紅葉会の御活躍に期待します。

(鹿島農林事務所 林務課 普及担当)



お知らせ

「平成21年度 山地災害防止 標語コンクール」で 友田^{さや}沙さん、原 峻一郎さんが優秀賞に輝く！

平成21年度(社)日本治山治水協会主催の「山地災害防止標語コンクール」において三瀬中学校2年生の「友田^{さや}沙」さん及び佐賀市在住の「原 峻一郎」さんが「優秀賞((社)日本治山治水協会賞)」に入賞されました。

標語「土砂崩れ 落石防ぐ 大きな緑」 友田^{さや}沙
標語「山の異変 「まだ大丈夫」が 命取り」 原 峻一郎

このコンクールは、毎年行われていており、平成21年度は、全国で大人から子供まで679点と多数の応募がありました。優秀賞5点のうち佐賀県から5点が入賞しました。(佐賀県治山林道協会)



伊万里農林高校に機材(チェーンソー)を贈呈

佐賀県林業改良普及協会は、林業後継者育成を目的として平成10年度から毎年、高校生の現場研修機材として、旧式の機材や故障した機材の代替えとして測量機材・刈り払い機・チェーンソー等を贈っています。今年度はチェーンソーを贈りました。

これから、1人でも多くの林業後継者が誕生することを願っています。
(佐賀県林業改良普及協会)



表彰者の紹介

平成21年度 林業研究グループコンクール 九州ブロック実績発表大会

平成21年10月22日に宮崎市で開催された「平成21年度九州ブロック林業研究グループ実績発表コンクール」において、佐賀市婦人林業研究会が最優秀グループに選ばれました。当日は、西会長により活動状況の発表が行われ、各種研修会の開催や地域における間伐実施の働きかけ、里山の食材を活かした「森の香 菖蒲ご膳」の提供など日頃の幅広い取組が高く評価され、3月3日に東京で開催される全国林業グループコンクールに九州地区の代表グループとして発表参加することになりました。(林業課 専門技術員)



平成21年度 林業普及指導員全国シンポジウム

平成21年11月26日(金)東京都港区南青山の南青山会館において、林野庁研究・保全課主催の「平成21年度 林業普及指導職員全国シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムでは、全国の6ブロックから選抜された6人の林業普及指導員による普及指導活動事例が発表されました。伊万里農林事務所小山由希子主査は、九州ブロック代表として発表し、優秀賞に選考されました。発表課題「山の何でも相談窓口開催中！

～伊万里西松浦森林業再生プロジェクトの取組について～
(林業課 専門技術員)



表紙の紹介 平成21年7月に佐賀市立三瀬公民館「せせらぎ みつせ館」が開館しました。佐賀市三瀬村は「田舎と都市のふれあい祭り」、「フランスのクサク村との交流」といった豊かな自然を生かした独自の交流事業を展開しており、新しい公民館が地域振興の活動拠点として活用されています。

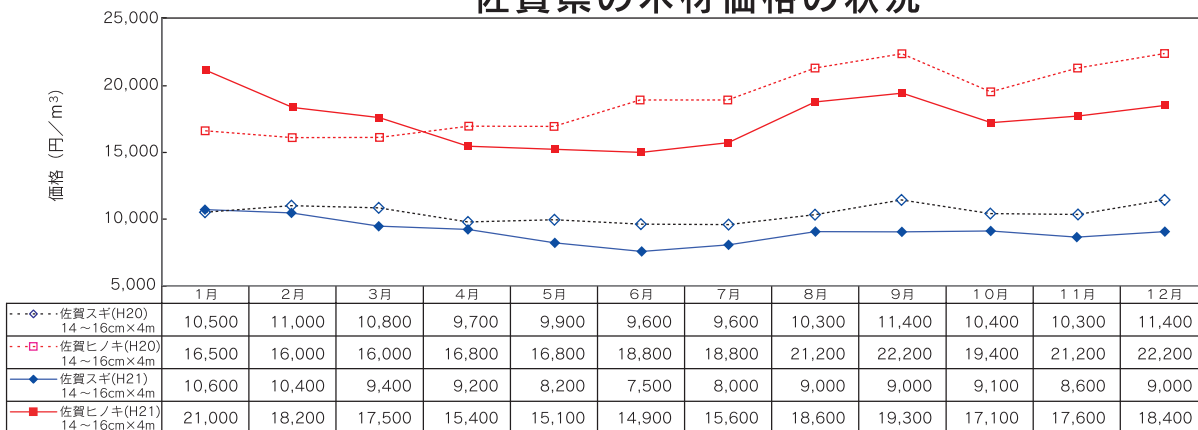


佐賀の木材市況（平成21年10月～12月）

区分	樹種	規格・寸法		等級	10月		11月		12月	
		径(寸法) cm	長さ m		価格 円/m	増減 (対前月)	価格 円/m	増減 (対前月)	価格 円/m	増減 (対前月)
丸太	スギ	14~16	3	並	9,100	△500	8,600	△500	8,600	0
		18~22		10,100	△100	9,900	△200	10,000	100	
		24~18		10,600	700	10,500	△100	10,700	200	
		30~		11,400	300	10,300	△1,100	10,600	300	
		14~16	4	並	9,100	100	8,600	△500	9,000	400
		18~22		10,400	△600	10,100	△300	10,600	500	
		24~28		11,400	△100	10,600	△800	11,300	700	
		30~	13,800	1,100	11,400	△2,400	11,600	200		
		14~16	6	並	14,600	800	13,600	△1,000	14,100	500
	18~22	15,300		900	14,500	△800	15,000	500		
	24~28	16,000		0	18,000	2,000	18,000	0		
	30~	23,000	△2,000	25,000	2,000	23,000	△2,000			
	ヒノキ	14~16	3	並	12,300	500	12,100	△200	11,600	△500
		18~22		14,200	600	14,300	100	15,600	1,300	
		24~28		19,100	3,100	16,000	△3,100	16,800	800	
		30~		31,000	5,000	24,000	△7,000	20,300	△3,700	
		14~16	4	並	17,100	△2,200	17,600	500	18,400	800
		18~22		18,400	△1,200	18,200	△200	18,800	600	
24~28		18,600		△3,000	17,500	△1,100	18,000	500		
30~		25,000	△9,000	17,700	△7,300	21,700	4,000			
14~16		6	並	27,000	3,900	27,000	0	22,700	△4,300	
18~22	26,000		2,000	25,500	△500	22,700	△2,800			
24~28	24,000		△6,000	23,000	△1,000	30,000	7,000			
30~	45,000	△15,000	35,000	△10,000	85,000	50,000				
製材品	スギ	10.5×10.5	3	特1等	26,500	0	26,500	0	26,500	0
		12.0×12.0		26,500	0	26,500	0	26,500	0	
		10.5×10.5	4	並	22,000	0	22,000	0	22,000	0
		12.0×12.0		23,000	0	23,000	0	23,000	0	
	ヒノキ	10.5×10.5	3	並	52,500	0	52,500	0	36,000	△16,500
		12.0×12.0		52,500	0	52,500	0	52,500	0	
		10.5×10.5	4	並	52,500	0	49,000	△3,500	49,000	0
		12.0×12.0		52,500	0	49,000	△3,500	49,000	0	

スギ・ヒノキ丸太：佐賀木材(株)、(協)唐津木材市場、(株)伊万里木材市場、佐賀県森林組合連合会共販所の平均価格
スギ・ヒノキ製材品：(株)伊万里木材市場

佐賀県の木材価格の状況



佐賀県のスギ・ヒノキ素材価格の動向

資料 H20 スギ：佐賀県森林組合連合会木材共販所、ヒノキ：(株)伊万里木材市場
H21 スギ・ヒノキ：佐賀木材(株)、(協)唐津木材市場、(株)伊万里木材市場、佐賀県森林組合連合会木材共販所



http://www.pref.saga.lg.jp/

編集
後記

平成21年は、全てにおいて変化の年でした。林業・林産業においては、住宅着工戸数が70万戸台までに落ち込み、住宅需要の冷え込みが木材価格の下落に影響しました。6月を底に少し持ち直しましたが予断を許しません。今年は寅年、飛躍に向けて虎視眈々とチャンス进行年だと言われていいます。県産材の需要拡大に向けて、厳しい現実を前向きに見据えてじっくり構えていこうと思います。(T.F)